このまちには「余白」がある。
自分たちの手で未来を
作っていける楽しみを共有したい

居住5,000人+
まちを好きな5,000人。
拡大オール南伊勢で、
新たな活力を！

計画に
しっかり思いを
込めて書けば、
夢は必ず叶うと
信じています

出張先からでも
「早く帰りたい」と
思えるまちの価値や魅力を、
未来へさらに広げたい

大好きな
南伊勢町のことを
もっと知って、
もっともっと
好きになりたい！

南伊勢町の声

総合計画に参加した
一人ひとりがまちについて語った
声を集めてみました

自力で逃げ切れる
体づくりを。
地域全体で
「命を守る脚力」を
養いたい

自分たちの考えが
まちを動かしていく。
そんな実感を持って
未来に関わりたい

「福祉は生きている全て」
日々の暮らしを大切にする
包括的な地域づくりを

南伊勢町は最高の場所。
疲れた時、いつでも羽を休めに
戻れるまちでありたい

「この場所があるから
まちが好き、住み続けたい」
そう思える場を

第4次南伊勢町
総合計画 概要版
-後期基本計画-
2026-2029

発行年月／2026年7月
編集・発行／南伊勢町まちづくり推進課
〒516-0194 三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦3057
電話：0599-66-1111（代表）
FAX：0599-66-1904

第4次南伊勢町総合計画に
関する詳細は本編または
町ホームページをご覧ください。

南伊勢町　総合計画　検索

「私たちの元気」で
輝きつづけるまち
「輝き」を「未来」へ
受け継ぐまち

概要版



第4次南伊勢町総合計画
-後期基本計画-
2026-2029

三重県 南伊勢町

みんなの“元気”を合わせて、次の世代へ“輝き”をつなぐ
「住んでいて良かった」と笑顔あふれるまちを、「オール南伊勢」で

「人が減るから、できなくなる」のではなく、
「このまちにあふれる豊かさがあるから、輝きつづけられる」。
2045年の未来を見つめ直し、町民の皆さまと、まちを愛するすべての人々が
笑顔になれる、本当に大切にしたい施策を構築しました。
「いつでもおかえり」と言い合える、心から実感できる温かいぬくもりがある。
そんな心のつながりを、新しい「オール南伊勢」で目指します。



まちに住む方々と、このまちを愛して通ってくださる「外の仲間」。
その全員が新しい「オール南伊勢」のパートナーとして手を取り合い、
笑顔を未来へつなぐ、新しい幸福な姿を目指します。

そのために7つの重点プロジェクトを力強く進め、子どもたちが誇りを持って「このまちで暮らしたい、働きたい」といきいき育ち、一人ひとりの“元気”がまち全体の“輝き”となる持続可能なまちを、みんなの力でともにつくっていきましょう。



重点 1

活力ある産業・経済プロジェクト

目標

一次産業の新たな可能性を切り開き、まちの内外から多様な人材が参画して新たな仕事を生み出し続け、子どもに継がせたい仕事が生まれ続ける将来のまちを実現するため、地域資源の「協創（リデザイン）」と稼ぐ力の抜本的強化に取り組みます。



主な取り組み

- 「海業（うみぎょう）」の視点による漁港の機能強化と新たな価値の創出
- 「まちじゅうどこでも産直市場」の整備による販路の拡大
- 異業種連携や町内外プレイヤーとの協働促進による既存産業の多角化や新商品・新サービス開発支援
- ICT・AIを活用した一次産業のスマート化支援と労働生産性の向上
- 「複業的農業」の推進と農地マッチング・伴走支援の強化



中学生からの提言の反映

「農林業の魅力を肌で感じ、将来の選択肢として真剣に考えてもらえるよう、実際に触れる機会を増やすべき」
「SNSを活用して自然の中で働く豊かさを県内外に発信し、仕事につながる担い手を増やしたい」

重点 2

安全安心のまちプロジェクト

目標

集落ごとに自助・共助・公助が強固に連携して大規模災害にも適応し、生活基盤や公共交通を維持し、通院・通学・買い物の生活条件に大きな支障がない安心な暮らしを守る将来のまちを実現するため、大規模災害への「適応策」と日常生活の安全安心対策を強化します。



主な取り組み

- 南島地区小学校の高台移転の確実な推進
- 空き家除去や耐震改修の促進と空き家活用による地域の安全性向上
- 道路や水道など公共インフラの長寿命化対策の強化
- 公共交通の再構築と有償運送等を組み合わせた移動基盤の整備



中学生からの提言の反映

「高齢者も含め、みんながすぐに避難できるまちにしたい」「防災上のリスクを低減するため空き家の整備・活用を提案する」

重点 3

子育て・子どもの育ち応援プロジェクト

目標

一人ひとりが望むライフスタイルを大切にしながら、結婚や出産を望む人がその希望をかなえやすく、地域ぐるみで子どもの成長を見守りながら、子どもたちが地域とのつながりのなかで主体的に多様な学びをする将来のまちを実現するため、若者・女性・子育て世代に「選ばれる」環境を切れ目なく整えます。



主な取り組み

- 給食費無償化の継続や結婚支援金の拡充など経済的負担の軽減
- ふるさと教育や外国語教育の更なる充実や小中学校統廃合の推進など健やかな育ちと「生き抜いていく力」を育む教育環境の整備
- 若者が必要な情報に確実に到達できるSNSやアプリによる発信の強化
- 移住定住コーディネーターによる伴走支援と住まいの確保の加速



中学生からの提言の反映

「SNSやアプリ等を活用し、まちの様子、子育て支援情報、補助金の概要や手続き方法等を分かりやすく発信（すべき）」「企業を誘致するなどして働ける場所を増やし、若者やUターン・Iターン希望者が安心して暮らせる雇用環境を整備してほしい」

重点 4

誰もが元気なまちプロジェクト

目標

病気や加齢によって生活に支障が出ても、世代間で支え合いながら住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる将来のまちを実現するため、超高齢社会に適応した多世代の支え合いと、医療・介護・福祉を含む生活サービスの基盤維持に取り組みます。



主な取り組み

- 医療・介護人材の確保に加え、働きやすさを高める「定着支援」を推進し、地域福祉の基盤を維持
- オンライン診療や遠隔モニタリング等の導入可能性を調査し、将来にわたる医療アクセスを確保
- 社協や地域組織、民間事業者と連携し、外出困難な高齢者等への配食・見守り等の支援体制を充実
- 集落支援員や地域運営組織の機能を強化し、多世代で日常的に支え合う仕組みを再構築



中学生からの提言の反映

「福祉の働き手確保」「誰もが取り残されることなく、必要な情報にアクセスできるよう、きめ細かな情報提供を目指す（周知宣伝の強化）」

重点 5

輝きをもてるまちプロジェクト

目標

町外から南伊勢に関心のある多くの人々を迎えて町民とともに多彩な活動を展開し、美しい環境を守り産業に活かす持続可能な未来を展望できる将来のまちを実現するため、「オール南伊勢」で挑戦を支え、町内外の力を結集します。



主な取り組み

- 官民協働での事業づくりを徹底し、民間主導の活動や挑戦を積極的に支援
- 産業・移住・観光が連携し、SNSを核とした包括的な発信で町の認知度と魅力を向上
- 二地域居住制度の推進や、若者が地域課題解決に挑む実践機会の拡大
- ブルーカーボンの活用、地産地消による流通ロス低減などの脱炭素・循環型社会を構築



中学生からの提言の反映

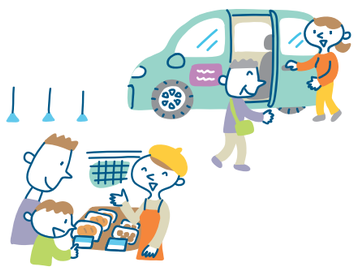
「まつりやイベントの積極的な開催によるコミュニティの強化」「自然は南伊勢町の最大の魅力であり、これを守りながら発展していくべきだ」

重点 6

買い物不便・困難対策プロジェクト

目標

地域特性に応じた独自の仕組みによって地元の店舗を守り、地域交通と買い物支援のネットワークによって日々の不便や苦労が解消される将来のまちを実現するため、移動支援と生活支援を一体的に推進します。



主な取り組み

- 地域の店舗維持のため、省力化・DX導入等の活用支援を強化し、経営の持続可能性を向上
- 交通基盤（重点2）と連携し、買い物や通院の移動が成立するよう乗継やダイヤ等の利用環境を改善
- 配食・配達・送迎等のサービスの事業化を促進し、地域組織と連携した組織的支援を確立
- ネット注文等の活用支援など、デジタルの力を借りた新しい生活支援の形を検討



中学生からの提言の反映

「誰もが安心安全に利用できる道路環境の整備（スムーズな移動）」

重点 7

健全な自治体経営・未来投資プロジェクト

目標

効率的な行政経営と公共資産のフル活用によって必要な施策を持続的に実行し、未来を切り開くための投資を絶え間なく行える将来の役場を実現するため、持続可能な行政経営への転換と未来への確実な投資を着実に進めます。



主な取り組み

- 徹底した事業精査とまちの経営の見える化（まちの家計簿の提示）、ふるさと納税等の自主財源確保により健全性を維持
- AI・DXの活用で定型業務を効率化し、職員が「住民対応・意思決定」に注力できる環境を整備
- 公共施設の長寿命化と集約化を進め、脱炭素化（GX）の視点を取り入れた施設更新を推進
- 既存制度では対応困難な課題に対して、小規模でも効果的な「未来投資」枠（仮称）の設置を検討

次世代とともに創る未来

ふるさとフォーラムからの提言



南伊勢町は、子どもたちを未来をともに創る
「パートナー」として尊重します。
彼らの「やってみたい」という挑戦を
地域全体で支える姿勢を大切にし、
提言を計画の各プロジェクトに反映しました。



中学生の提言

◆ 産業への想い

「単に魚を獲るだけでなく、保護する意識を持って豊かな海を守りたい」「自然の中で働く豊かさをまちの内外へ伝え、将来の選択肢にしたい」という強い意志が示されました。

◆ 活気あるまちへ

若者が安心して暮らせる仕事の場や、人が集まる場所づくりを提言。「自分たちの考えがまちを動かす」という実感を持って関わりたいという、頼もしい声が届いています。

小学生の発言

◆ 海と山を守る

「ごみを出さない」「食べ残しを減らす」など、自分たちにできることから始め、大好きな南伊勢の自然環境を守る取り組みを呼びかけました。

◆ 手を取り合う「共助」

防災学習を通じ「普段からの挨拶や交流が、災害時の助け合いに一番大切」「坂道が大変な人の手を引きながら一緒に避難したい」という、優しい思いやりの心が語られました。